

文科省の働き方改革最前線

中教審「学校における働き方改革」部会傍聴記

越教組ニュース

越谷市教職員組合
情宣部
18.05.01(火)
Tel 988-3281
Fax 988-3283

教員の働き方が話題になっていきます。先月のクローズアップ現代でも取り上げていました。実は、中教審はすでに二〇回以上の会議を重ね、本格的に学校現場の働き方を検討し始めています。そこに元越教組委員長の大里さんが傍聴に行かれていきます。大里さんに、文科省で取り上げられている話題、最新の情報を届けてもらおうと「傍聴記」をお願いしました。何回かに分けて、掲載していきますので楽しみにしてくださいませ。

中教審の審議会はこの四月で十一回になりますが、私が傍聴したのは五回ほど。分かる範囲で様子や意義、審議にまつわることをお知らせしたいと思います。

傍聴するまで

中央教育審議会(略して中教審)は、教育制度や教育課程など話し合う部会を設けています。指導要領の元になるものも、この中教審で話し合われているのはご存知の通りです。

私が参加したのは、「学校における働き方改革特別部会」といいます。二〇一六年に文科省の行った勤務時間の実態調査で、この一〇年間で教職員の残業が大きく増え、「看過できない」と文科大臣の指示で設置された部会です。

私は教職員の働き方のブックぶりは絶対におかしいと、長年思ってきましたので、出来るだけ参加しようと思えました。

義、審議にまつわることをお知らせしたいと思います。

最初の頃は席が空いているので、名刺を入れてもらったことでもあります。

文科省のホームページに載っています。部会の名前を検索すると、すぐに出てきます。

申込み先をコピーして、名前、住所、電話、所属を書いて、メールで申し込みます。結構間際になってから審議の日にちが決まるので、見逃してしまうこともあります。この頃は傍聴席がいっぱいなので、早めに申し込みが必要があるかも知れません。

最初の傍聴の時は、会場に早めに向かいました。文科省の建物で行われるのではなく、周辺の会場を借りて開かれるようです。迷いながら一時間前に到着。

わくわく最初の傍聴

受付名簿には、私の名前がありませんでした。不慣れたスマホでの申込みが、うまくいかなかったようです。残念ながらこのまま帰るのかと肩を落としていたら、名刺を求められて、通

してくれました。傍聴者は、出版社の人なのかスーツの女性、どこかでみたことがある教育学者、高校の組合の役員などという人など。くたびれたかっこうの人

欧米の教員は別世界

審議開始。はじめに、傍聴者に対して注意がありました。私は始まる前に会場写真を撮ったので、つまみ出されるかと思いましたが、何事もなくてホッとしました。

審議委員は、学級会を大きくしたような口の字型に座っています。中央の議長の審議員が、文科省の役員に基調の説明を求めます。文科省の担当者は、分厚い資料を簡潔に説明してい

は、たぶん教員退職者。私もあのようにくたびれ



にも他国と違いがあるのかと愕然としました。例えばイギリスは、教員がやらない仕事を決めています。出席を調べる。多量の印刷物。掲示物を張る。金銭のやり取り……

きます。まず、二〇一六年に行われた教職員の実態調査の追加報告。次に諸外国との働き方の比較について。

諸外国の教員の働き方の表(裏面・再掲)は、衝撃的でした。

日本の学校は、求められることが多くなってきたということは、漠然とは思ってききました。しかし、項目にするとこんな

多彩な審議委員の顔ぶれ

審議委員は、全部で十六人。この中で私が知っているのは、小川正人さん。教育学者で、審議会の座長になっていきます。給特法の廃止論者です。でも、議長なのでご自分

の意見は言えませんが、私たちが教育現場の味方はいないのか。急先鋒で、毎回提案文書を出している人がいました。妹尾昌俊さん。この人の発言にとりわけ注目するところになりました。

越教組定期大会

5月12日(土) 13:30~

今年の方針について話し合います。

コミセン視聴覚室

担当者から

今年度、越教組ニュースを中心に担当することになったSです。現職ですが、短時間の再任用で、一週間に3日だけ学校に行っています。(給料の減りがすごい!!)

その分時間ができたので、がんばって書いていこうと思います。ぜひご愛読ください。